

佐藤成広作 「劇画時代」

効果音 (駅のガヤ)

駅アナウンス (フィルター音)間もなく3番線に急行新宿行きが参ります。白線の内側に下がってお待ちください。

清水祐子 ジュン、早く早く。もう電車来るんだから。

富田順子 次のにしようよ。もう疲れちゃった。

駅アナウンス (フィルター音)間もなくドア閉まります。駆け込み乗車はおやめください。

効果音 (発車のベル)(ドアのしまる音)

順子 やったね。ラッキーじゃん。

祐子 これで遅刻にはなんないからね。今んとこ皆勤なんだから。

順子 お見事、オー。

祐子 古いギャグやるんじゃないよ。それよりジュン、スカート挟まれてんじゃない。

順子 ほんとだ。やだー、これ、今日下ろしたばっかなのに！ どうすんのよ。

祐子 あたしに怒ったってしょうがないでしょ。次に開くまで待ってたらいいでしょ。

順子 そうするっかないね。ユッコ、みんなには内緒よ。分かってんでしょ。

車内アナウンス 間もなく、相模大野に到着です。お手回り品、お忘れのないように願います。相模大野の次は、続いて町田に止まります。

ナレーション 清水祐子も富田順子も、少しおっちょこちょいの青春高校2年生。学校でも何かが起こりそうです。

効果音 (教室のガヤ)

祐子 ねえ先生。これから何やんの？

先生 こら！ きちんと決められた席に着け。今日は、これから化学反応の実験をする。教科書の34ページを参考にして、自分たちで装置を組み立てること。

祐子 先生！ このゴム栓、強いからガラス管を受け付けません。

クラスメート (笑い)先生、こっちのゴム栓も強いよ。

先生 こら、実験はまじめにやらんとケガするぞ！ ゴム栓には少し力を入れてねじ込めば、入ってゆくはずだ。

祐子 ジュン、何してんの？

順子 シ！ 見つからないようにマンガ読んでんだから。読み終わったらユッコにも見せてあげるからさ。

先生 富田！ 何やってるんだ？

順子 え?! あ、あの、教科書を読んでたんです。

先生 富田にしちゃ珍しいじゃないか。やっつまじめに勉強する気になったらしいな。しっかりやるんだぞ。

順子 ホヨヨ。
(一同) (爆笑)
祐子 ジュン、うまいこと切り抜けられたじゃん。
順子 もちろん。先生なんか、どってことないの。
ナレーション そんな風に毎日を過ごしている順子と祐子でしたが…。
順子 ユッコ、早くしてよ。37分に乗り遅れちゃうじゃないのよ。あれに乗れないと、いつものカッコいい人が見られないじゃない。
祐子 分かってるけどさ。よし、できた。(間)あと12分なんじゃない。なんとかなるよ。
順子 走んなきゃ乗れないの！
祐子 ジュンはよっぽどあの人のことが気に入ったみたいじゃん。向こうは気がついてんの？
順子 ぜーんぜん。だってあつちは男子高の人間でしょ。鈍感なんだから。
祐子 男子高なら、かえって敏感なんじゃない？
効果音 (駅のガヤ)
駅アナウンス (フィルター音)白線までお下がりください。各駅停車元厚木行き、間もなく到着いたします。
順子 間に合いそうよ。ユッコ、急いで！
効果音 (ベルの音)
駅アナウンス (フィルター音)ドア閉まります。
祐子 キャ！ 髪の毛。助けて！ 電車止めて！
効果音 (電車の通過音)
音楽 (衝撃的)
(間)
祐子 どうしてここに？ 体中が痛い。
順子 ユッコ、大丈夫？ ユッコが髪の毛挟まれたまま、電車動きだしちゃったでしょ。あたし、どうしたらいいか分かんなくて…。ごめんなさい。だけど、電車に乗ってた人で、ほら、あたしが「カッコいい」って言った人いたでしょ。あの人が非常コックを引いてくれたから…。ユッコ、あたし、なんにもできなかったの。ほんとにごめんね。(泣き出す)
祐子 いいのよ。それより、その人どうしたの？ お礼言わなくちゃ。
順子 あの、彼ね、今、お花を買いに行ってるの。もうすぐ戻ってくると思うわ。
祐子 名前、なんていうの？
順子 あ、それ、まだ聞いてない。ごめんね。やっぱりあたし、なんにもできないんだわ。
祐子 ううん、ジュンがそばについてくれるだけで心強いよ。
順子 でも、あたしがあの電車に無理してでも乗ろうって言ったから…。1本待てばよ

かったんだわ。そしたら、こんなことにならなくて済んだのに。

祐子　　もういいのよ。

効果音　（ドアのノック音）

芹沢正　　もう目が覚めたんですか？　どうですか？

祐子　　ええ、大丈夫です。昼間はどうもありがとうございました。お陰でケガも軽かったです。

正　　花、ここに飾ったらどうですか？　生けるのは、だれかに頼まなくちゃ。

順子　　それぐらい、あたしがやるわ。

正　　それじゃお願いします。僕、これから聖歌隊の練習がありますので。

祐子　　セイカタイ？

正　　教会の合唱団ですよ。毎週日曜日の礼拝の中で合唱するために練習があるんです。

祐子　　教会？　キリスト教を信じてるの？

正　　ええ。もしよかったら、日曜日に教会のみんなでお見舞いに来ましょうか？　それじゃあ僕はこの辺で。さよなら。

祐子・順子　　さようなら。

祐子　　不思議な人もいるものね。教会に行って、聖歌隊ってのに入って。日曜日にもこも行けないの、つまらないんじゃないのかな。

順子　　でも、すてきな人ね。わざわざお花まで買ってきてさ。

祐子　　そりゃそうだけど。日曜日、順子も来てよね。

順子　　ん？　うん。

ナレーション　　順子は、今までの自分の生き方とはまるで違う人間に出会って、戸惑ってました。なんとなく自分が恥ずかしくなっていたのです。

　　　　　　　　さて、その日曜日――。

祐子　　お医者さんは、もう1日か2日で退院だって言ってたわ。

順子　　おめでとう！　また二人で一緒に騒げるのね。

祐子　　そういうこと。ところでさ、彼、ほんとに来るかな。

順子　　クリスチャン、ウソツカナイ。

祐子　　そうね。(笑い)

効果音　　(ノック音)

祐子　　来たようよ。どうぞ！

正　　こんにちは！　だいぶいいみたいですわ。今日はみんなでやってきました。

一同　　こんにちは！

教会の女子　　いかがですか？　正君から聞いて祈祷会でも祈ってたんですよ。「早くよくなるように」って。

祐子　　キトウカイ？

教会の男子 ええ、神様へのお祈りの会ですよ。

順子 あの、そこで、ユッコ、家あの、裕子さんのためにお祈りを？

ナレーション 祐子は、なんだか不思議な気がしました。見ず知らずの人のケガのために祈ってくれる人がいるなんて、考えてみたこともなかったのです。

正 そんなにキツネにつままれたような顔しないで下さいよ。お祈りのあとでみんなに「お見舞いに行かないか」って言ったら、「行く行く」って言うもんだから、今日はこうやってドヤドヤと来たわけ。

祐子 ありがとう…。ありがとうございます。

正 差し支えなければ、一曲賛美歌歌っていいですか？ 聖歌隊、教会の合唱団で練習してきたばかりなんです。

祐子 え、ええ、どうぞ！

音楽 (讚美歌312番「慈しみ深き」ヴォーカル)

祐子モノローグ この人たちは、なんでこんなに喜びにあふれて歌うことができるんだろう。あたしなんか、今までただ流されるままに生きてきただけ。勉強もしないで、漫画ばかり読んで。毎日毎日、ただなんとなく過ごしてきただけ。この人たちとは違う。違いすぎる。とても溶け込めない。まるで別世界だわ。

効果音 (讚美歌終わり、裕子、順子の拍手)

順子 とってもよかった。メロディーは昔習ったことあるみたいだけど、歌詞が違うのね。

祐子 ほんと。こういうの初めてだからよく分かんないけど、でもなんだかジーンときちゃった。

正 そいつはよかった。それじゃ、今度はもっと軽快なのを。そう思ってギター持ってきたんだ。

音楽 (「歌い続けよう主の愛を」ヴォーカル)

祐子モノローグ この人たちのこの喜びは、どこから来るんだろう。あんなに輝いた顔して。あたし、今まで現実の嫌なこと、つらいこと、漫画の世界に入ってつかの間でも忘れようとしてた。でも同じ“別世界”でも、あれはしょせん空想の世界。でもこれは、この人たちは、現実にあたしの目の前に存在してる！

音楽 (「歌い続けよう主の愛を」高まる)

祐子モノローグ …だったら、もしかして、あたしでもこんなになれるのかしら？ もしできるんなら、あたしもなりたい！

正 さ、裕子さん、順子さんも一緒に！

音楽 (二人も歌に入る)

ナレーション うながされるままに、いつしか二人も歌声に加わっていました。祐子の渴いた心の中には、「十字架に命を捨てた主の愛の大きさを」の一節が、染み渡るようにいつまでもこだましていました――。

聖書の言葉

(新改訳 ヨハネの手紙第一 4:10) 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

<完>